審査結果の要旨

氏名　クリシュナ　チャンドラ　ポウデル

本研究はネパール極西部における出稼ぎ経験者のHIV感染症と梅毒に関する疫学調査である。３つの研究から成る第1部と呪術医に対するHIV/AIDSトレーニングの評価結果を示した第2部から構成され、下記のような結果を得ている。

1　ネパール極西部の出稼ぎ活動はHIV/AIDS流行の時限爆弾となるか？

本研究では、ネパール極西部にある人口177,789人のドティ県において、インドへの出稼ぎ状況と出稼ぎ者のHIV感染リスクについて調査した。出稼ぎ経験者の多い村（全体の約20%）から714戸を抽出しインタビューした結果、全体の49%の家で家族の中から少なくとも一人がインドに出稼ぎにでた経験があると回答した。また研究期間中、全体の41％の家から少なくとも一人は出稼ぎにでていた。その総数は372人であり、平均年齢は30歳、95%は男性、82%は既婚、94%はインドを対象地としていた。全体の回答者の28%は、出稼ぎにでている男性家族は対象地で婚外セックスをしているであろうと答えた。最後に村を観察した結果、HIV/AIDSに罹患していると思われる者は少なくとも4名いることを確認した。本研究の結果、ドティ県の対象となった村(全体の約20%)において出稼ぎは頻繁になされており、出稼ぎ経験者とその家族はHIV/AIDSの危険にさらされていることが示唆された。

2　ネパール極西部におけるムンバイ病：男性出稼ぎ経験者と非経験者のHIV感染症と梅毒の疫学

本研究では、ネパール極西部における男性出稼ぎ経験者と非経験者を対象にHIV感染症と梅毒の有病率を測定し、これらの感染症の行動リスクファクターについても調査した。ドティ県の97名の出稼ぎ経験者と40名の非経験者に対し、HIVと梅毒検出のための血清検査をした結果、出稼ぎ経験者の10%、非経験者の3%がHIV陽性であり、出稼ぎ経験者の25%、非経験者の15%が梅毒陽性であった。特にムンバイ市を対象とした出稼ぎ経験者は性感染症罹患リスクの高い行動をしていた。非経験者に比べ、経験者は婚前または婚外のセックス経験が多く(odds ratio (OR)=2.2, 95% confidential interval(CI)=1.5-5.1,p=0.04)、セックスワーカーとのセックスも多かった(OR=8.2, 95%CI: 3.2-20.5, p<0.001)。さらに多数のパートナーとのセックス経験をもっていた(OR=2.8, 95%CI: 1.2-6.5, p=0.01)。本研究の結果、ネパール極西部の村からムンバイ市への出稼ぎ経験者、非経験者に、HIV感染症と梅毒への罹患者がいることがわかった。特にハイリスク行動の多くみられた出稼ぎ経験者に対する行動変容プログラムを迅速に行う必要があると示唆された。

3　ネパール極西部の出稼ぎ経験者によるインドと出身地における性感染症リスク

行動に関する研究

本研究では、ネパール極西部出身の出稼ぎ経験者のHIV/AIDSへの罹患のしやすさと一般住民へ感染の流行をもたらしうる危険性について調査した。主にムンバイ市から戻った53名のドティ県出身の出稼ぎ労働者に対し、出稼ぎ先での生活環境と性生活について、出身地における性行動、HIV/STIについての知識・認識、コンドームの使用状況について、6回のフォーカス・グループ・ディスカッションを実施し、詳細なテーマ分析を行った。本研究の結果、インドでもネパールの出身地でも、出稼ぎ経験者は複数のパートナーを持っていた。コンドームの使用頻度も低かった。このようなハイリスク行動に影響を及ぼしていた要因として、インドでは同僚間での誘い、安くセックスできること、家族のしがらみからの開放感、飲酒、HIV/STIに罹りにくいであろうという認識があることが示された。一方、ネパール出身地では出稼ぎ経験者として得た新たな社会的地位、多くの村祭り（女性パートナーとの出会いが多くなる）、HIV/STIに罹りにくいであろうという認識が要因としてあることが示された。HIV/STIに関する出稼ぎ経験者の知識のレベルは極めて低かった。結論として、ネパール極西部出身の出稼ぎ経験者はインドでも出身地でもハイリスクな性行動をしていることが認められ、彼らに対する迅速なプログラムの実施が必要であることが示唆された。

4　ネパール極西部における呪術医HIV/AIDSトレーニングの効果とトレーニング内容の定着に関する研究

本研究では、ネパール極西部における呪術医に対するHIV/AIDSトレーニングの評価を行った。61人の呪術医に対し、HIVの感染ルートに関する知識、HIV感染についての誤解、予防法について、トレーニング実施前にベースライン調査を行い、修了9ヶ月から12ヶ月後には評価調査として6回にわたるフォーカス・グループ・ディスカッション、キーインフォーマント・インタビューを実施した。トレーニングの結果、呪術医は、HIVの感染ルートに関する知識、HIV感染についての誤解、予防法について、より正しい回答を示すようになった。またトレーニングを受けた呪術医は、呪術医が住む村の住民が受け入れることのできるような方法でHIV/AIDSに関する教育を実施しており、コンドームを配布していたこともわかった。さらに、HIV/AIDS関連のスティグマを軽減させる役割をも担っていたことが確認された。本研究の結果、ネパールでHIV/AIDSプログラム推進する際は、呪術医が重要な役割を果たしうることが示唆された。

以上、本研究はネパールにおいて出稼ぎ経験者のHIV感染症と梅毒の有病率と帰国後の性行動について系統的に調査した最初の研究である。本結果は出稼ぎ者が帰国後もたらす性感染症の理解に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。